

会 議 記 録

会議名称	杉並区子ども・子育て会議（平成28年度第2回）	
日時	平成28年8月24日（水）19時00分～21時07分	
場所	杉並区役所 中棟6階 第4会議室	
出席者	委員名	菅原委員、平林委員、吉田（善）委員、今井委員、木野内委員、福山委員、安藤委員、上田委員、小俣委員、澤津委員、中里委員、龍前委員、吉田（寛）委員
	事務局	子ども家庭担当部長、子育て支援課長、子ども家庭支援担当課長、保育課長、保育施設担当課長、保育施設整備推進担当課長、児童青少年課長、子どもの居場所づくり担当課長、障害者施策課長、杉並福祉事務所高円寺事務所担当課長、高井戸・和泉保健センター担当課長
傍聴者数	名	
配付資料等	<p>資料1（1～2） 子ども・子育て会議委員名簿及び第2回席次表</p> <p>資料2 杉並区子ども・子育て支援事業計画の教育施設における進捗状況</p> <p>資料3（1～11） 子ども・子育て支援事業計画における事業の進捗状況</p> <p>資料4 杉並区子ども・子育て支援事業計画の計画全体の成果</p> <p>資料5 平成28年度の主な意見聴取事項とスケジュール（案）について</p> <p>参考資料1 子ども・子育て支援事業計画における点検評価について（平成28年度第1回子ども・子育て会議資料）</p> <p>参考資料2 杉並区子ども・子育て支援事業計画における28年4月の保育施設等の見込み量等について（平成28年度第1回子ども・子育て会議資料）</p>	
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について</p> <p>（2）その他</p> <p>3 報告事項等</p> <p>（1）保育緊急対策について</p> <p>（2）その他</p> <p>4 閉会</p>	
子育て支援課長	<p>皆さん、こんばんは。それでは、本日出席予定の委員の皆さんはおそろいの方ですので、早速、平成28年度第2回子ども・子育て会議を開会したいと思います。開会に当たりまして、子ども家庭担当部長の田部井よりご挨拶申し上げます。</p>	
子ども家庭担当部長	<p>皆様、こんばんは。遅い時間にお集まりいただきまして、ありがとうございます。今日は、事業計画の点検・評価ということで、保育については先にやっておりましたけれども、そのほかの事項については初めて点検・評価ということでございまして、事前に資料も配りましたけれども、わかりづらいところもあるかと思っておりますので、もう一度議題の説明を聞いて、ご意見をいただければと思います。</p> <p>それから、今、区役所のほうでは、区の実行計画、行財政改革の計画、施設再編計画の改編の時期に来ておりまして、9月1日に皆さんにパブコメするという段取りで動いているところでございます。きょうお話しできるところはちょっと限られているようなところはありますけれども、こういう方向ですよということでお話しできることはお話をして、内容については9月1日以降、公表になった段階で、事務局からそれに関するところの資料がわかるように、皆さんに追ってお知らせしたいと思っておりますので、区のほうの公表の関係からそういう段取りをさせていただきましても、その辺もご了承いただければと思います。</p> <p>では、よろしく願いいたします。</p>	
子育て支援課長	<p>それでは、本日、欠席のご連絡をいただいている委員なのですが、伊藤委員、柴田委員、山本委員、荒川委員、矢作委員の5名でございます。18名中5名の欠席、13名出席ということで、会議の定足数には達しておりますので、会議は成立してございます。</p>	

	<p>それから、資料ですが、事前にお送りした資料がございます。それに加えて、本日机の上に第1回の会議録、事業計画書、この黄色い本です。それから、参考資料3、「待機児童解消緊急対策に基づく保育施設整備の進捗状況について」、参考資料4として、「杉並区実行計画平成27～29年度」の抜粋をお配りしております。</p> <p>それから、資料2につきましては事前に配布しておりますが、一部数字の誤りがありましたので、本日席上に資料2だけ改めて配布させていただいております。</p> <p>資料の確認については以上でございます。ちょっと資料が多いので、説明をするときに確認しながら進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、会長、議事をお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、早速始めさせていただきたいと思っております。今日は、少し分量がありますので、てきぱきと進めていきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。</p> <p>では、早速、議題の(1)「子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について」に入りたいと思っております。前回、4月の会議のときに保育施設については既に点検・評価を行いました、そのほかのものにつきまして本日順次説明を受けて、また意見を述べていただきたいと思います。</p> <p>では、早速、子育て支援課長、お願いいたします。</p>
<p>子育て支援課長</p>	<p>それでは、点検・評価する項目については、就学前の教育・保育、保育については今会長がおっしゃられたように既に点検済みですので、後ほど簡単に触れさせていただきます。それと、地域子育て支援事業11事業についての点検・評価でございます。</p> <p>事前に配付した参考資料1というのがございます。点検・評価の方法についてですが、需要量と確保量の比較で、その数値に大きな乖離がある場合はその理由の分析、今後の対応策、予算・決算額、それと、計画全体の成果としてアウトカムということで、指標の目標数値がどれだけ達せられているかということをご説明したいと思います。</p> <p>各事業の数値においては、実績値が計画数値を上回っていても、事業を実施する中でサービスの提供や確保には問題がなかったものとか、需要量に対して確保量が追いついていないものもございます。その都度ご説明をしていきたいと思っております。</p> <p>なお、財源の確保状況というところで予算額と決算額をお示しすることになっておりますが、決算数値につきましては決算の議会の認定がこれからでございますので、決算見込額として記載させていただきました。今後、大きく見込額が変わることはないと考えております。財源の状況については、大きな差異があるもの以外については説明を省略させていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、支援事業計画の順番にご説明していきたいと思っております。</p> <p>まず最初に、就学前の教育施設の評価についてご説明したいと思います。計画書の11ページと、本日席上にお配りして差しかえていただくような形になります資料2をご覧くださいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>教育施設の実績については、各年の5月1日現在が基準日となっております。そういったところで、計画書では28年度の部分を参照するということとなります。11ページの中ほどの欄の表がございますけれども、その28年度の数値、量の見込みと確保量、差し引き、これが資料2の計画数値のところに反映されて、同数になっているということでございます。1号認定が4,682人、2号認定が1,385人、計が6,067人。確保量については、幼稚園、子供園が682人、その他が6,580人、計が7,262人で、差し引きが1,195人という計画数値でございます。</p> <p>これにつきまして実績値なのですが、需要量につきましては1号認定が1,604人ふえて6,286人になってございますけれども、これはその下の2号認定の計画数値がニーズ調査における数値を含んで1,385人と出しておりますが、実際は新制度の幼稚園とか、区立の子供園の定員数が437人ということでございますので、948人の差異が生じてございます。合計数値からその数値を引いた数値が1号認定ということで計算をさせていただきます。それで、1号認定の需要量の差が1,604人ということになってございます。ただ、これはちょっと見にくいというか、わかりにくいので、今後少し表現の仕方を変えて——今度、29年度に見直しがあるのですけれども、私も説明するときに非常に説明しにくい感じがありましたので、何の数値を持ってく</p>

るかということについては今後検討させていただきたいと思いを。

ただ、確保量を見ていただくと、幼稚園、子供園、これは新制度に移行した幼稚園と区立子供園の実績数が 815 人、その他は新制度に移行しないで現在の私学助成等による運営を継続する幼稚園が該当するのですが、その実績が 6,840 人ということで、計の確保量が 7,655 人と需要量を上回っております。ということで、幼稚園の需要については確保されているということでございます。今後とも、需要量の見込みとか確保量の数値については研究をさせていただいて、表現をわかりやすくしたいと思っておりますが、今後の私立幼稚園の新制度への移行予定とか、また、閉園予定なんかもあるかもしれませんので、そういったところの定員数を見込んで数値を出していきたいと思いを。

確保量については、資料 2 にも書いてあるように、私立幼稚園の利用定員が増加しております。それとあわせて、私立幼稚園の入園実績が予想をかなり下回ったこともございまして、結果的に確保量が増えるということになってございます。

教育の部分については以上でございます。

なお、全ての事業についてご説明をしてから質問をお受けしたいと思いを。

次に、12、13 ページですけれども、これは保育のことでございますので既に評価をして、例えば 28 年度 4 月 1 日の待機児童が 136 名という結果が出ておりますので、そういったところで数値なども何度も修正してございます。後ほど簡単にご説明させていただきたいと思いを。

次に、地域子ども・子育て支援事業です。11 項目でございます。事前配付資料の資料 3-1 と計画書の 14 ページを比較していただきたいと思いを。

需要量、確保量ともに 5,184 人のところ、実績値は 5,385 人でございます。大きな乖離というものはございませんが、201 人の増加となっております。この増加の原因は、妊娠届出数の増に伴って妊婦健康診査の受診者数が増加したことによるものです。

今後ですけれども、今年度から杉並区での独自実施で行っていた妊婦の子宮頸がん検診と H I V の抗体検査が東京都の妊婦健診の受診項目に追加されました。そのことによって都内の指定医療機関での受診が可能となって、利便性が向上されております。そういったこともあって、さらに受診者の増加が見込まれると考えてございます。

次に、計画書の 15 ページ、事前配付資料の資料 3-2 をご覧ください。

すこやか赤ちゃん訪問でございます。需要量、確保量ともに 4,345 人のところ、実績値は 4,595 人です。大きな乖離はないものの、250 人の増となっております。これは、出生数の増加に伴い、赤ちゃん訪問数も増加したことによるものです。

今後ですけれども、平成 27 年度訪問率が 98.6% ということで、かなり 100% に近い数値となっております。訪問できないところというのは、例えば外国人の方で、もう海外へ行かれてしまってお会いできないとかいうケースがかなり多いので、ほぼ 100% 近い数値で赤ちゃん訪問は実施できているということでございますが、今後も出生数はまだもう少しの間、杉並区では増えることが予想されておりますので、訪問率もこの数値を維持しながら、対象者全員の訪問を目標として実施してまいりたいと考えてございます。

次に、利用者支援事業、計画書の 16 ページと事前配付資料の 3-3 をご覧ください。

需要量、確保量ともに 5 箇所のところ、実績値も 5 箇所でございます。5 箇所ある保健センターに子どもセンターを 5 つ併設いたしまして開設しております。母子手帳の交付時に保健師等専門職による面接や相談に応じるとともに、子育て応援券（ゆりかご券）の配布を行うことなど、妊娠期からの利用者支援も 5 つの保健センターで行っております。

今後については、児童館施設を活用した子ども・子育てプラザを順次整備してまいりたいと考えてございます。

次に、乳幼児親子のつどいの場でございます。計画書 17 ページ、事前配付資料、資料 3-4 をご覧ください。

つどいの広場、ゆうキッズ、箇所数については、27 年度は乖離はございません。利用人数については、需要量の実績値は計画数値よりも 1 万 3,586 人分増えてございますが、確保量は計画数値と……。すみません。ここは、利用人数の実績値のと

ころで確保量 43 万 8,866 人となっておりますが、これは誤りまして、この計画数値の 44 万 510 人が正しい数値でございます。差が 0 ということで、ここは数値を訂正させていただきたいところです。申しわけございません。

確保量は計画数値と同数ということでございまして、需要実績には対応できてございます。ただ、今後、利用人数の増や児童数の増加、また、子育ての孤立化を防ぐニーズの高まりから利用者が増加するというふうに考えられます。今後も児童数の増加に伴い、乳幼児の居場所のニーズの高まりが予想されるため、これも先ほど申し上げましたが、順次整備する子ども・子育てプラザにおいて地域子育て支援拠点事業を実施してまいりたいと考えております。

次に、計画書の 18 ページから 19 ページにかけてと、事前配付資料の 3-5 をご覧ください。

まず、18 ページのほうです。幼稚園在園児の一時預かり、幼稚園における在園児を対象とした一時預かりについては、利用者の需要が増加したため、需要量の実績値が計画数値を大きく上回っております。ただ、計画段階での確保量に余裕がございましたので、結果的には実績の増加分は確保されているということでございます。この在園児については都の事業のために、区の費用負担はございません。

それから、②として、幼稚園における在園児を対象とした定時預かりなのですが、これも需要量の実績値が計画数値を上回っています。確保量については、長時間預かりの実施に同意する幼稚園が増加しなかったため、計画どおりの確保はできませんでした。資料 3-5 をご覧いただくと、確保量の計画数値、5 万 800 余になってございますが、3 万 6,369 人ということで、実績値と同じ分しか確保できないということでございました。実績値は確保されているものの、計画どおりの確保量を増加できないという問題がございました。

それから、ひととき保育・一時保育についてでございます。これについては、実績値が計画数値より大幅に少なくなっております。需要量が計画数値 6 万 7,507 人のところ、実績値が 3 万 5,456 人ということで、一見十分確保できるように見られるのですが、ここについては、地域における一時預かりで利用を希望する施設とか日時で既に予約が入っているためになかなか利用できないと。あるいは 1 か月前から予約をしても、いっぱい利用できないというような状況がございまして。ということで、この数値にあらわれているほど需要が少ないというわけではございません。むしろもっと増やしていかなければいけないということで、数値上で見ると確保も十分できているような状況には見えますけれども、潜在的なニーズはまだありますので、ここら辺のところはこのグラフ、数値上では出てこないところなのですが、実態としてそういうところはありますので、ひととき保育・一時保育の今後の需要増については十分確保していくような政策をとらなければいけないと考えてございます。

それから、最後に、ファミリー・サポート・センターについてです。計画段階では確保量不足が予想されていましたが、実際に実績が伸びなかったため、実態として確保できた状況でございました。今後については、先ほど幼稚園在園児の定時預かりにございましたように、長時間預かりの施設がなかなか伸びないということがございましたので、その確保を図る必要があると考えてございます。

それから、一時預かりについては、先ほど申し上げましたように数値上であらわれていないニーズが潜在的にあるということで、これについても一時預かり事業、子ども・子育てプラザを整備していく中で拡充をしていきたいと考えてございます。

また、ファミリー・サポート・センターについては、保育園だけではできないサービスの担い手として、今回、27 年度についての確保はできましたけれども、安定的な運営を図っていきたいと考えてございます。

次に、20 ページ、事前配付資料の資料 3-6 をご覧ください。

延長保育についてでございます。この数値は 4 月 1 か月の数値ということであらわしてございます。20 ページの表のところも各年 4 月分ということで記載してございますけれども、4 月 1 か月分の数値で、量の見込み、確保量等をあらわしてございます。

計画数値では、年々増加する保育所の入所者に比例して、利用者数は大幅な増加を見込みましたけれども、実績は 7 割にとどまりました。ただ、利用者数の実績は、

ここに記載しておりますように毎年着実に増加しているということです。確保量の実績値は計画数値より上回ることができましたけれども、今後とも確保に努めてまいりたいと考えてございます。

次に、計画書の21ページ、事前配付資料の3-7です。

病児保育でございます。これは、需要量、確保量ともに実績値が計画数値を大きく下回っております。これは、1箇所はもう既に開設されておりましたが、2箇所目が27年度開設の予定だったのですが、その施設の開始時期が27年度の最後のほう、28年3月になってしまいまして、実際に27年度稼働できたのが10日前後ということになりました。そういったところで、需要量、確保量ともに計画数値を下回るようになりました。ただ、もう開設して軌道に乗っておりますので、今後については計画どおりに進んでいくということと、さらに31年度には1箇所増設する予定でございますので、ニーズに応じた事業の充実に努めてまいりたいと考えてございます。財源については、ここは決算見込額が予算額の半分ぐらいになっております。今申し上げましたように、開設時期がおくれたことによって、このような差が生じてございます。

次に、計画書の22ページ、小学生対象のファミリー・サポート・センターでございます。事前配付資料の3-8をご覧ください。

計画数値では確保量が需要量を大幅に下回っているということで、需要量に対して確保が難しいというような状況がございます。これも先ほどの一時預かり事業と同様に実績値は低くなってございまして、数値上は確保されているように一見見えるのですが、実際はやはり利用したいときに予約が入っていて利用できなかったりということがございます。また、利用会員は増加傾向にあるのですが、協力会員の数がほとんど増えておりません。そういったところで、実際に利用したいという潜在的ニーズについては、この実績の値を大きく上回っているのではないかと考えてございます。今後についても、計画上確保量が足りないところが30年度まで続いていくというような形になってございますので、利用状況等の推移を踏まえつつ協力会員の増員に努めてまいりたいと考えてございます。

次に、学童クラブでございます。計画書の23ページ、資料の3-9でございます。

学童クラブにつきましては、基準日が28年の4月1日になっておりますので、計画書につきましても28年度のところをご覧くださいと思います。計画数値、資料3-9と冊子の28年度のところを見ていただくと数値がそろってございます。

需要量は学年別で記載されております。確保量については区の学童クラブ、民間学童クラブで集計されておりますので、需要量、確保量ともそれぞれの合計数で比較をしていただきたいと思います。結果として、需要量の計画数値と実績、確保量の計画数値と実績とも大きな乖離は見られません。今後も計画的に学童クラブの需要に応じた育成スペースの確保と事業の充実に努めてまいりたいと考えてございます。

次に、冊子の24ページ、子どもショートステイでございます。事前配付資料の3-10でございます。

これは、計画数値と実績値、需要量、確保量とも大きな乖離がございます。これについては、需要量を算定するときのニーズ調査で、子どもショートステイを利用したいと回答をされた方が非常に多かったためです。子どもショートステイについては、一時的に子どもを養育することが困難になった場合に、そういう制度があるのであれば利用したいということで、ニーズ調査のときは計画数値にあらわれているように多かったのですが、実際にこれを利用された方は実績値のような形になってございます。そういう乖離が起きているということでございます。

ただ、実績値についても年々増加していることもございます。また、日によっては実際に受け入れ人数をオーバーする日も年に2~3回はあったというふう聞いてございますので、安定的に受け入れをするためにも、新たな実施施設の検討を開設に向けてしていきたいと考えてございます。

最後、25ページと事前資料の3-11でございます。

これにつきましては、要保護児童等の支援のための事業ということで、要支援対象者の増加によりまして、事業量、確保量とも実績値が計画数値を上回っております。ただ、実際に訪問はしてございますので、実績値について、対応はできている

	<p>ということでございます。今後も支援対象者の増加が見込まれますので、家庭状況の多様化を踏まえて、より適切に事業を展開していきたいと考えてございます。</p> <p>ここについては、予算額と決算額、決算見込額が大体半分ぐらいになっております。これについては、区の職員による訪問や委託により、委託事業者に訪問していただくなど、そういった事業になってございますが、区の職員による訪問が比較的多く対応できたということで、委託や派遣などの費用を支出しなくて済んだのでこのような数値の開きが出ているということでございます。</p> <p>以上で点検・評価については終わりますが、資料4を出していただけますでしょうか。アウトカム、計画全体の成果ということで、指標に対してどれぐらい対応できたかということでございます。</p> <p>これにつきましては施策が3つで、指標が4つございます。「地域における子育て支援の推進」のところで、子育てが地域に支えられていると感じる割合は、29年度目標が85%ですが、27年10月時点の実績だと67.1%ということで、これはまだちょっと差があるかと考えてございます。それから同様に、地域の子育て支援サービス等が利用しやすいと感じる割合が、29年度目標が70%ですが、まだ55.8%ということでございますので、ここについては少しこの数値が上がるように工夫をしなければいけないのではと考えてございます。</p> <p>施策の次の「子育てセーフティネットの充実」については、子育てを楽しんでいる人の割合、29年度目標が85%、これが27年10月時点で80.4%ということでございますので、これはそのまま順調に伸びていけばいいのではと感じております。この2つの施策については区民意向調査から数値をとってございます。</p> <p>「就学前における教育・保育の充実」については、第三者評価による数値でございますが、保育園利用者の満足度、29年度目標が90%以上でございますが、27年10月時点で86.7%でございますので、これについてもそのまま順調に伸ばしていければいいのではと考えてございます。</p> <p>最後に、既に点検・評価をいただいている保育についてですが、事前配付資料の参考資料2というA3の資料をご覧くださいと思います。左側に表が載っているものでございます。</p> <p>確認でございます。表Iで確認していただければと思いますけれども、この黄色い冊子とは、例えば人口推計とかは平成27年度の第2回の会議で修正された数値、量の見込みのところの実績については平成28年の第1回で修正した数値で載せてございます。</p> <p>28年度の実績で、差引889名確保されていないという実績でございますけれども、この889名はそのまま待機児童ということではなくて、区外の認可保育所に入っている方とか、区の補助を受けているベビーホテルに入っている方、あるいは認定を受けても保育園への入園の申請をしない方を除きますので、そういった方を除いた実数としては、待機児童は136名ということになってございます。これについてはこれまでの会議の中でも報告し、数も修正してございますので、簡単にご説明をさせていただきました。</p> <p>以上で点検・評価の項目については終了させていただきますので、何かご質問、ご意見があれば、お願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。丁寧に説明していただいたのですけれども、ちょっと2段階に分けたいと思います。</p> <p>まず、資料2から始まりまして3-1から3-11、また、参考資料2がありましたので、この資料について不明、あるいはわからないということがありましたら先にご質問いただきたいと思います。資料の見方とか、それ自体ですね。</p>
副会長	<p>先ほど資料3-4のところで数字の訂正があったのですけれども、そこをもう一度確認させていただきたいのですけれども。</p>
子育て支援課長	<p>資料3-4の数字の訂正ですが、利用人数のところの確保量の実績値が43万8,866というところで需要量の実績値と同様になってございますけれども、これは確保量の44万510が入るべき数値でございます。それで、差が0と。マイナス1,644となっておりますけれども、ここは0ということでございます。</p>
副会長	<p>そうしますと、今、行というか、横に見ていただいて差が0とおっしゃっていた</p>

	だいたいのですが、その下に「②-①」というところがあるので、そこの数値も訂正になるということでしょうか。
子育て支援課長	そうですね。ここの数値も 1,644 ですね。
副会長	ありがとうございました。
会長	ほか、いかがでしょうか。 委員、お願いします。
委員	まず、資料 2 と資料 3-9 に共通することなのですが、平成 28 年度の計画数値というご説明があったのですけれども、ここはなぜ 28 年度の数値を計画数値として記載されているのかをお聞かせいただけますでしょうか。資料 2 と資料 3-9、28 年度の数値を記載というご説明があり、そのとおりだと思うのですけれども。
子育て支援課長	資料 2 については教育の部分、資料 3-9 は学童クラブということなのですが、これらの比較基準日というのがありまして、ほかの部分は 27 年度総体の実績になるのですけれども、学童クラブと保育については 28 年 4 月 1 日の数値が 27 年度の実績として、この計画のところに載ってくるのです。教育については 28 年の 5 月 1 日が基準日になっておりますので、27 年度の実績が、ちょっとわかりにくくて申しわけないのですけれども、28 年の 5 月 1 日の数値として 27 年度を評価するということになります。ここの数値は、資料 2 については教育ということなので、28 年 5 月 1 日現在の数値で 27 年度の実績を見る。資料 3-9 については、28 年 4 月 1 日の数値で 27 年度の実績を見るということなんです。
委員	今ご説明いただいた内容は、この計画書を見ても全く読み取れないのです。そうなってくると、これは点検ですから、検証もあるのですよね。特に平成 27 年度予算措置であるとも思いますので、そこら辺は整合性をとっていただかないと、例えばバブコメで出したとしても全然読み取れないと思うのです。そこら辺の説明はしっかり記載していただくということはやらないのでしょうか。
子育て支援課長	これは、私も説明の段階で準備してしまして非常にわかりにくいなと思いましたので、この計画をつくる段階でどのように考えてやったかということも含めて、少し事前のきちんとしたご説明が必要なことだなというふうには考えております。
会長	それは今までも区として同じ基準でやっていたらというか。
子育て支援課長	そうですね、はい。
会長	教育に関しては 28 年、つまり当該年度のことです。前年ではなく、当該年度をもって前年の評価をするという決まりは、この黄色の事業支援計画を立てたときに決められたというふうに理解してよろしいのですか。
子育て支援課長	そうですね。そういうことで、例えば 23 ページに学童クラブがあるので、その上のほうのところもそうなのですが、下の表のところも基準日が各年 4 月 1 日現在と書いてございます。ということは、28 年度に書かれている数値は 28 年 4 月 1 日現在の数値ということになりまして、ここで 27 年度の実績を見るという形にはなっておりますが、一見しては非常にわかりにくいところなんです。
委員	恐らくこれは一般の方は全くわからないと思うのです。それであれば、27 年度の数値のところは 28 年 4 月 1 日を基準とか、そういう形をもって平成 27 年度の計画数値、実績値としないと、ほかのたくさんあるものとの整合性がとれないと思うのですけれども、いかがですか。
子育て支援課長	確かにそういうことがあります。策定の段階では説明はさせていただいていますが、ただ、実際に見にくいというところはあります。それと、この計画自体の策定に国の基準もありますので、区独自でそういうことをできるのかどうかというのは調べてみないとわかりませんので、どういう表現をすれば一番わかりやすいのかということについては、確かにそれぞれ違う見方をするのは非常にわかりにくいということはこちらも感じておりますので、少し研究させていただきたいと思っております。
会長	少なくとも表をもう少し一目見てわかるように、今おっしゃられたような表現の工夫でも示しきれれると思いますので、まずそこを工夫していただきたいと思っております。
委員	あと、資料 3-4 で確保量の変更、実績値が 43 万 8,866 から 44 万 510 という訂正がございましたけれども、利用した人数である以上は需要量の実績値とイコール

	<p>になるのではないかなど。ほかでも幾つか実績値をそのまま確保量に持ってきている数値もありましたし、逆に確保量の計画数値をそのまま実績値に持ってきているケースがあるのですけれども、これはどういったことでそういった差異が生じるのでしょうか。</p>
子育て支援課長	<p>例えば3-1の場合、妊婦健康診査なんかの場合は実績値イコール確保量ということで、これは健診をやられた方は全て計画数値よりふえたとしても実施しますので、同様に実績値と確保量が同数になっているということでございます。</p> <p>資料3-4につきましては、確かに実績値で確保ということもあるかもしれませんが、その下のつどいの広場とゆうキッズの箇所数に変更はございません。ということは、計画数値と実績値について、つどいの広場、ゆうキッズともそれぞれの想定されている定員が実績としても確保されているということですので、実際の利用者数は43万何がしですけれども、確保としては計画数値の確保量どおりに確保されているということでございます。</p>
委員	<p>そうしますと、資料3-5の幼稚園在園児定時預かり、ひととき保育・一時保育、ファミリー・サポート・センターのところの確保量の実績値ですが、幼稚園在園児定時預かりの確保量実績値が3万6,369というのは、当初から施設的なもので確保していくということであれば、当初の計画数値ではないかなどと思うのですけれども、いかがでしょうか。</p>
子育て支援課長	<p>これにつきましては、先ほどもご説明しましたけれども、幼稚園在園児の定時預かりをしていただける幼稚園の数が増加しなかったものですから、この計画の確保量は確保できなかったと。予定していた確保量に届かなかったということでございます。ただ、実績のニーズについては一応確保していただけたけれども、本来であればもっと確保量を5万に伸ばさなければいけないところだったのですけれども、予定されていた幼稚園が実施に同意するという園が増加しなかったということで、ここは実績値がそのまま確保値になっているということでございます。</p>
委員	<p>今のご説明ですと、恐らく確保量としては例えば3万5,000ぐらいしかなかったけれども、全員預かりましたという説明だと思うのですけれども、そこら辺はきちりと読み取れるようにしていただかないと、実際はどれだけ計画数値から乖離しているかというのが読み取れないと思うのです。その点はやはり区民の方からの意見を聞くのであれば、きちりとした数字上の説明は必要ではないかと思えます。以上です。</p>
会長	<p>非常に複雑な表になっていますので、実は私も副会長も何回か学習した後に意味がわかるようになったというところがありますので、皆さんも頭がぐるぐるしてしまうかもしれないのですけれども、今、委員が言ってくださったことで少し腑に落ちたのではないかと思います。</p> <p>要するに需要量というものがあって、これはニーズ調査に基づいて計画数値が立てられているわけです。ですから、この需要量の実績値というところが実際に使われた人数ということになります。これと確保量というのは、やはりニーズ調査に基づき、これだけ確保しようよという計画があったわけで、ここの実績値というのはその計画に従って席が確保できたかということで、物によっては席の確保のほうが評価しているものもあるし、物によっては席が確保できなかったものもあるということで、①の需要量と②の確保量についてちょっと丁寧な説明がないと確かに区民はわからないかもしれません。これは表現上の工夫で乗り越えていただきたいと思えますので、図解するなり何なりしてお願いしたいと思います。皆さん、大丈夫でしようか。</p> <p>それでは、一応読み解けたと言うと変ですけれども、表の意味がわかったというところで、中身についてのディスカッションに入っていきたいと思えます。</p> <p>今、11の事業について説明がありましたように、物によってはやはり予定していたものよりも、保育所が一番代表ですけれども、間に合わずにあふれてしまったものもありますし、追いついたのだけれども、かなり大変だったのだらうと予想できるものもありました。特に小さい年齢の乳幼児つどいとか、すこやかとか、妊婦健診とか、追いつきましたけれども、もともと考えていたよりもかなり、例えば乳幼児つどいなどはプラス1万3,586人ですか。だから、相当一生懸命追いついて</p>

	<p>だいたことと思います。しかし、では、質はどうだったかなというのも気になったりもしますけれども、特に低年齢のところは伸びていると思います。</p> <p>特に私が気になったのは妊婦のところ、プラス 201 人ですか、この人たちがもし杉並で生まれていくと、また小さい子たちが増えていくという状況にあって、需要に追いついていただけたことが非常にすごいと思いましたが、そのように予想よりも数値が動いていったものもあったというふうに思いました。</p> <p>ということを含めまして、どこのところからでも結構ですので、質問、ご意見がありましたらよろしくお願いたします。</p>
委員	<p>予算額と決算見込額についてちょっと伺いたいのですけれども、この予算額というのは計画数値に対する予算額なのか、実績値に対する予算額なのか、どちらなのでしょう。</p>
子育て支援課長	<p>これにつきましては、あくまでも計画数値に対する予算額ということでございます。</p>
委員	<p>もしそうだとすると、資料の 3-10 は、予算額がこれだけあって、実績値が 34% ぐらいしかないのにこれだけ費用が出てしまっているというか、まだ見込みなのであれなのですけれども、実績がこんなに少ないのに費用がこんなに出してしまうというのはどうなのでしょうね。先ほどの 3-11 の場合には区の職員の訪問が比較的多くできたということだったので、半額でおさまったというお話だったのでそれはわかるのですけれども、こちらはそんなに実績値が高くないということは、そんなにやっている方がいらっしやらなかったということですよ。それなのに、決算でこれだけのお金が出ていっているというのはどういうことなのですかね。予定してて人材もちゃんと確保して。ですから、これはむだなお金をいっぱい払ったということですかね。そういうことになってしまいますよね。</p>
子育て支援課長	<p>この辺につきましてはちょっと今状態がわからないので、確認いたします。</p>
会長	<p>では、確認していただいて、またご説明をいただけるということですね。</p>
子育て支援課長	<p>はい。</p>
会長	<p>今日ではなくということですか。</p>
子育て支援課長	<p>そうですね、はい。</p>
会長	<p>では、後ほどこの時間中にわかれば、またお願いたします。</p> <p>それでは、委員、お願いたします。</p>
委員	<p>今の 3-10 と 3-7、子どもショートステイ、それから病児保育の事業ですけれども、保育園が足りない、その場所が中々ないということですが、これらの事業については場所の見込みはあるのでしょうか。</p>
子育て支援課長	<p>病児保育につきましては、今現在 2 箇所、31 年度にさらに 1 箇所増設するという考えでございます。今のところ計画どおりですけれども、ただ、現計画の量の見込みと確保量を見ると、若干確保が足りない部分が見えていますので、これについては計画どおりではありますが、ちょっと検討を要するところかなと考えております。</p>
保育課長	<p>病児保育についてですが、あくまでも実績値、需要数のところは、各病児保育室の定員が、先行している西荻が 10 人、次に和田につくったところは 6 人でございます。当然、その中で毎日定員 10 人ないしは 6 人の受け入れをしているのですが、実際にはもう定員に達してしまって、残念ながらお電話いただいてもお断りしている人たちがいますが、その数は実はここには一切あらわれてこない。それが本来であれば需要ということで見込まれるので、実際にお断りした人数はうちのほうの担当が把握しておりますので、それに基づいて、やはり 31 年度までにはもう 1 箇所どうしてもつくりたいという計画で今やっているところでございます。</p>
委員	<p>それは、土地というか、建物の見込みがもうできていますか。</p>
保育課長	<p>見込みですね。今、病院に協力をいただいて、今回も佼成病院さんに協力をいただきました。当然、医師の確保、看護師の確保、その上でさらに保育士の確保、なおかつ土地・建物の確保というふうに確保すべき事業がたくさんあるのですが、正直、今のところ特にめどが立ったところがございます。以後、総合病院でやる形がいいのか、それとも個人医院でぜひ手を挙げていただければ、そういった部屋を</p>

	確保した上でやっていただくという両方の考えで、今のところ我々のほうでは探している最中ということでございます。
委員	保育園とかを回ってお話を聞くと、やはり病児保育のご希望が高いので実現していただきたいと思います。子どもショートステイについても要保護だとか、いろいろご家庭の事情があったりして、いろんなご事情で必要な方がいらっしゃると思うのですけれども、まず場所、見込みがあるのかどうか。検討すると書いてありますけれども。
子育て支援課長	これにつきましては、やはり平成30年度に向けて事業規模を拡大していく考えでございますけれども、中々見込みというのが難しい部分もございますので、これについても新たな施設を開拓していきたいということで考えてはございますが、今はまだ何箇所開設できるとかいうところまでは至っていないところでございます。
委員	目当てというか、ここら辺というご希望があって、その辺の地域の方々の話し合いとかいうことになっていくのでしょうか。
子育て支援課長	まだそこまでは、いっていません。
会長	よろしいでしょうか。今、要保護児童もすごく増えていますので、実績のほうが超過になっていますね。今、委員からあったことは重要だと思いますので、ぜひ推進していただきたいと思います。 ほか、いかがでしょうか。
委員	資料3-5、幼稚園在園児一時預かり、「都事業のため、区の費用負担はなし」と記載があるのですけれども、これは区のほうでは一切予算措置は、していないということで理解してよろしいのでしょうか。
保育施設担当課長	ご指摘のとおりでございます。
委員	区が1回出したものを都から補助みたいに入るのではなくて、全て都のほうから直接費用負担をしているということですね。
保育施設担当課長	おっしゃるとおりです。
委員	続きまして、資料3-6、延長保育についてですが、計画数値が需要量1,159に対して過去1,500を予定していましたが、なぜこれは1,699まで確保量を増やす必要があったのでしょうか。
保育課長	これは、私立保育園が毎年増えておりますが、その中で最大延長保育——これだけ預かることができますよという数字を出していただいていますので、要は最大値を出したというところで、確保量はこれだけ確保しているということを示した数字になっているところでございます。
委員	ただ、実績値の需要800に対して確保量をここまで増やす必要性があるのかどうか、ここの財源としてはかなりの額を計上していますので、その点はきちんと説明も必要ではないかなと思います。
保育課長	この金額については、実際に延長保育をおやりになっている保育園に対して委託で払っておりますが、人数による部分は実際に保護者の方が支払う延長保育料、これが私立の保育園の収入になりますけれども、要はそちらが減ってくるということになるので、直接この決算の額にはそれは連動しておりません。直接の各私立保育園さんのほうの歳入になるということがございますので、その分で、あくまでも予想で延長保育を利用される方が多いだろうと。それに対して最大受け入れられる人数を見込んだというところですが、実績としては先ほどご説明したとおり8割に届かない。7割ちょっとということになったというところで、今後、この数字については精査をしていきたいと思っております。
委員	続きまして、3-8、小学生対象のファミリー・サポート・センター、需要量の実績値が2,052と記載があるのですが、実はもっといるのだよというご説明があったかと思います。ただ、それであっても、確保量の実績値3,700、この数字について足りないというご説明があったかと思うのです。そこがこの資料からは全く読み取れないのですが、もう少し詳細な説明をお願いしたいと思います。
子育て支援課長	これにつきましては先ほどちょっと加えさせていただいたところなのですが、利用会員と協力会員というのがございまして、利用会員の数がここ何年間かで

	かなり増えてございます。それに対して、協力会員はほぼ同数で推移しているということがございます。実際にそういった利用実績によった数値ではありますけれども、ニーズについては先ほども申しあげましたようにこの数値以上にあるというふうなことをこちらでも感じております。協力会員がここ10年ぐらい増えていないということがありますので、この事業自体、援助の担い手である協力会員をふやしていかなければ成り立たないところもございまして、確保量について一応3,700とは書いてはございますけれども、これについては協力会員の増員を図ることを常に考えていきたいと思っております。
子ども家庭担当部長	補足ですけれども、今のところのサポート・センターもそうだし、例えば病児保育などもそうなのですけれども、こちらに上がっている実績のところ、成約した、成り立ったものだけを出してしまっているの、本当だったらお断りしているものを入れないと本当のニーズというのは出ないのだと思うのですが、今年はちょっと申しわけないのですけれども、今はそういう数値しかないもので、こういうわかりづらい説明になっているかと思っておりますので、その辺、来年の計画の見直しのとしまで、どういう現場のほうのデータの取り方ができるかということもあわせて考えて、混乱のないように整理をしたいと思っております。
委員	ありがとうございます。そこら辺の説明をもう少しわかるように、何らかの形でお示しいただいたほうがわかりやすいのかなと感じました。 それから、3-9の学童クラブ、実績値、1-4年生4,025人、5・6年生90人とありますが、これは希望された方は全て入れたというふうに理解してよろしいでしょうか。
児童青少年課長	学童クラブにつきましてかなり地域性というのがございまして、あるところでは需要をしっかり満たして定員が空いているところもあれば、地域によっては待機が出てしまっているところもありまして、ここの数字で言いますと、全体の総計でやってしまうものですから、その中で言うと確保されているということなのですが、個別に見ていくと待機学童は実際には存在するということになります。
委員	そこは示せないものなのでしょうか。やはりその地域性というのがありますけれども、待機児童がいるかないかという認識は必要だと思います。
児童青少年課長	そうですね。全体に言えるところですが、ちょっと表現としてまた工夫できる部分はしていきたいと思っております。
委員	最後に、参考資料2のところの説明の中で、ベビーホテルの説明があったかと思っております。補助金を出している。たしかこれは証明書か何かがないと出ないという説明を前回受けたと思うのですけれども、そのような形で理解してよろしいでしょうか。
保育課長	はい。そのとおり、東京都のほうの証明の部分で考えております。
会長	それでは、ほかいかがでしょうか。 では順番に、委員から。
委員	資料3-5及び冊子の19ページのところで、乳幼児の一時預かりのひととき保育及び一時保育に関してなのですけれども、私も一時保育をよく利用しております、この実績値より本当の需要は高いのではないかと先ほどおっしゃっていたのですけれども、やはり地域的に予約が取れなかったり、需要が大変高いなというのは感じております。 冊子のほうに、保護者の事情、病気、冠婚葬祭、育児中のリフレッシュなどと書いてあるのですけれども、私がより実感するのは、子どもが何人もいる場合、上の子の行事への対応とか、上の子のケアでかなり多くの周りのお母さんたちが利用しているのを感じています。また、週1などの仕事復帰とか、ご自分の仕事関係のことで利用しているなど感じていて、ひととき保育が増えればよいなと何年も思っていたのです。冊子のところで二十何年以降確保量が不足するので、児童館施設などを活用した子どもセンターを整備するときに一時預かりの拡充と書いてあると思うのですが、具体的にどれぐらい増やすのかとか、何箇所ふやすのかというのは現在の時点で決まっているのでしょうか。
子育て支援課長	現時点での子どもセンター、これは児童館施設を活用した子どもセンターということで、今、子ども・子育てプラザということになりますが、今年12月に1つ目

	<p>の子ども・子育てプラザが和泉にできます。一時預かりは定員が10名ぐらいかと思えます。それから、30年度に成田西に同じような施設ができます。それから、同じく30年度に天沼にもできるということで、今の段階では計画的に整備する中ではその3箇所が当面予定されているところです。</p>
委員	<p>ありがとうございます。私の利用している、ひととき保育はいろいろな地域からそこがとてもいいというので来ている方が多くて、かなり激戦となっていて、もう少しいろいろな場所に分布されると集中しなくて、本当に取りたいと思った方が取れるのかなと思っているので、もしもう少し増やすことができたらよいかと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。では、委員お願いします。</p>
委員	<p>資料3-7の病児保育事業について意見というか、自分の思ったところを申し上げたいのです。病児保育施設として以前もともと2箇所、私が知っていた限りは2箇所あって、1つは休止になってしまったと思うのです。そして、西荻に1つになって、その後もう1つ昨年度できたと思うのですけれども、私自身、未就学児が複数名おりまして、病児保育を使いたいなと思ったときにやっぱりお断りをされた者なのです。2回ぐらいかけて、2回とも、もういっぱいですと。前日にかけてもやっぱりもういっぱいなので。当日キャンセルが出るのが8時以降になると、そこからキャンセルを待つとなると、仕事を何日も休んでしまっていて行かなければいけないという状況に、家で見てあげたいと思っても、それが連日となったり、例えばインフルエンザで1週間丸々仕事を休まなきゃいけないとなった場合、ちょっとせっぱ詰まるものがあるのです。</p> <p>結局、自分自身がとった方法は、区が実施されている病児保育の事業を使うことではなくて、民間がやられているところが何箇所かあると思うのですけれども、そういったところに契約してお願いするという結果になってしまっているのです。こちらの病児保育の事業は区の子育て応援券が使えると思うので、とても安い金額で預かっていただける、プロの方に見ていただけるというので、すごく安心感があるのです。仕事に行かなきゃいけないお母さんたちが本当にたくさんいる中で、たまたまうまく予約がとれたお母さんは、とても安い金額で、子育て応援券というありがたいものが杉並区にはありますので、私はすごくフル活用させていただいているのですけれども、キャンセルのときとかを考えると、金額が安いだけにキャンセルもしやすいのかなといつも思っていて、ある程度個人負担部分をもっとしてもいいのかなと。こういうことを言うと、子育て中のお母さんからはせつかく安く使えているのに何だという話は、あるかと思うのですけれども、多分それぐらい働いているお母さんたちは病児保育の数の確保を望んでいるところだと思うので、そういうふうに申し上げたいなと思いました。</p>
保育課長	<p>ご意見ありがとうございます。今のご指摘いただいたキャンセルの問題は、非常に病院側も頭を抱えているところでもございます。確かにある意味気軽にと言いますか、予約だけしておいて、子どもの熱が下がったのでキャンセルということなのであまり責められないというのはありますけれども、非常にキャンセルが多くてという話は聞いていますので、今のようなご意見を参考に、どういう仕組みが一番いいのかを今後引き続き検討してまいりたいと思います。</p>
委員	<p>資料3-10の子どもショートステイについてなのですが、自分自身が今年、実は使わせていただいてすごくよかった事業だったので、ちょっとその意見を述べさせていただきます。</p> <p>私自身は、今年出産しまして、前回の会議のときは妊娠中で、今回は産後で参加したのですが、初めて使わせていただいて、この子どもショートステイの事業は、私自身も調べて、ああ、こういうのが杉並区にあったのだと初めて知ったのです。恐らく今まで子育て会議の中で何回もこの事業についての話は出ていたと思うのですが、利用してみて、出産のときに全く上の子たちの世話ができない中で、自分自身の親も遠方に住んでいて頼れない中で、数日間入院中に子どもを施設の中で預かっていただけたのはすごくよくて、本人たちの心のケア等、そのあたりを一番心配したのですが、本当にメンタルを崩すことなく、温かく保育していただけたので、感謝の気持ちを述べたいと思います。</p>

	<p>こちら子育て応援券で全てお支払いさせていただきました、本当にすごく助かりましたので、私的なことで申しわけないのですけれども、この場をかりてお礼申し上げたいなと思いました。本当にありがとうございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。 では、委員、お願いいたします。</p>
委員	<p>乳幼児親子のつどいの場のことでちょっとお尋ねしたいのですが、17ページです。28年、29年と、量の見込みとそれに対する確保量が出ております。今年1箇所つどいの広場が閉鎖されたと思うのですが、これから乳幼児親子のつどいの場の拡充を計画しているというような内容が書かれている上に、29、30年とつどいの広場を5箇所と入れているところは、これから1箇所どこかお考えでいらっしゃいますか。</p>
子育て支援課長	<p>資料3-4の5箇所の実績につきましては、あくまでも27年度の実績値です。こうなっております。今後なのですけれども、つどいの広場という名前にするかどうかは別としても、子ども・子育てプラザを整備していく中でそういう事業をしていきたいというふうなことも考えておりますし、まだまだ地域的に偏在しているところもありますので、場所が確保できるようであれば、要望が強いところもありますので、今後検討していくことを考えてございます。</p>
委員	<p>私ども、つどいの広場を10年間してきて最近すごく感じるのが、私たちからすると、大体6か月ぐらいでいらっしゃる方が以前は多かったのですが、育休中にそういった場所に行きたいということで、最近2か月ぐらいで、もう赤ちゃんを連れてお見えになる方が大変増えてきております。つどいの広場の今の現状としては、それで、すみ分けをするために赤ちゃん広場というものをつくって、その日を月に1回設けるようにしたところ、かなりの方がお見えになるようになりました。そこでのお声を伺うと、2か月、3か月、4か月ぐらいに不安感を持って、どなたかとつながりたいという声が現場で実際出ていまして、支える側としては少しいかなものか、ちょっと早いのではないかと思うのですが、本当に孤立しているお母様がどんどん早くお外に出たくなっているという現状があります。</p> <p>そんな中で、この拡充を計画しているというお声をここで書いていただいているのはありがたいところなのですが、つどいの広場5箇所が既にことし1箇所減るといことで、できましたらそういうことも含めて、育休の方たちの動きが少し変わってきているということもお考えいただけたらと思います。</p> <p>それともう1点なのですが、一時預かりのところ、ますます一時預かりの拡充を計画しているという話を先ほどから伺っておりますが、支える側として、ひととき保育と一時保育とファミリー・サポート・センターのお預かりの金額とかはこれから——例えば子どもセンターのほうの子ども・子育てプラザとかで一時預かりをお考えの場合は、こういった分類にするとどういう形の何を計画されているのですか。今の段階でちょっと金額が違ったりしている現状の中、そっちがとれたからこっちをキャンセルするとかいう声も実際出ているので、どうしても支える側としてはその辺のつながりをどういうふうにお考えなのか伺いたいです。</p>
子育て支援課長	<p>今の段階で、例えば新しく整備される子ども・子育てプラザの一時預かりは単価幾らでお預かりするかということまでははっきりと決めてはいないのですけれども、同じサービスが提供できるのであれば同じ金額が理想だとは思いますが、あとは費用対効果とかを見ながらそういう金額については設定していきたいというふうには思います。</p> <p>それから、先ほどのつどいについては、我々も例えば保育園に入る前とか、あるいは保育園に入らない場合でも、やっぱり核家族化とかいう中で育児に不安を持っているお母さんたちが増えているのは感じておりますので、そういうちょっとした場があれば悩みが解決できるということも非常に多くあると認識しております。そういったところの支援もかなり重要になってくるのだらうなどは感じておりますので、十分に確保できるような努力をしていきたいと考えております。</p>
委員	<p>それに伴い、地域拠点としての役割ということもそれぞれにしっかりと、私たちもそこを研さんしていかなくちゃいけない部分だと思うので、ぜひとも、その辺は現場と行政の方と詰めて、より良いものになっていけたらと思っているので、よろしくお願いいたします。</p>

会長	ありがとうございます。 それでは、委員、お願いします。
委員	資料3-5の乳幼児の一時預かりについて、幼稚園在園児定時預かりのところなのですけれども、「長時間預かりの実施に同意する幼稚園が増加しなかった」ということで、多分今後も働きかけをされていくのかなと思うのですけれども、今後どのような形で、見えているところでお話しいただける範囲で結構ですので、お願いします。
保育施設担当課長	ご指摘の長時間預かりの私立幼稚園に会合のたびにお願いをしている状況なのですけれども、やっぱり教育施設というのは、私立幼稚園はそういう部分でものすごく強いお考えもございまして、そういう中で今6園やっただけなのですけれども、さらにご指摘の部分にかなうように、さまざまな機会を通じてまたお願いをしていければと考えているところでございます。
子ども家庭担当部長	補足で、長時間預かりについては文部科学省のほうからもいろいろ補助金も手厚くするというので奨励するような動きもございまして、そういった動きもあわせて、機会を捉えて働きかけていきたいと思っております。
委員	ご説明を聞いていても、子ども・子育て会議のほうに参加しても、私、意図として無理に幼稚園の長時間を増やしてくれという意図では全く聞いていないのですけれども、多分そこの方針によってファミリー・サポートですとか、先ほどから各委員からもお話が出ていますけれども、ひととき保育のものの必要量はどれぐらいなのかとか、そういったものになんか影響してくるかなとすごく感じているのです。 お話を伺っていて、簡単には、急には増やせないということは本当に感じているのですけれども、幼稚園が終わった午後の時間が、上の子の用事で出るとか、1時間見てほしいとか、そういうまた新たな一時預かりのニーズが出てしまうところが現状あるのも確かなので、それぞれの事情も踏まえながらなるのですけれども、エリアが偏らずにこういったものがいろいろあることが区内としては理想かなと思うので、すごく大変だと思うのですけれども、連携しながら進めていただければ利用者としてはありがたいなと思っております。以上です。
会長	ありがとうございます。 ほか、いかがでしょうか。
委員	ものすごく基本的なことなのですけれども、例えば10ページに1号認定、2号認定、3号認定と書いてあって、そして、教育と保育という言葉があります。この保育というのはわかるのですけれども、教育の利用希望が強いと。教育ということはどういうことを言っているのか、区民の方がわかるのかなとちょっと疑問に思っています。 というのは、今、保育園では英語とか、サッカーとか、リトミックとか、いろんな専門の先生が来て教えてもらっています。そういうことがいろんな親に伝わって、要求がどんどん高くなっていますね。ピアノもやって、読み書きもやってというふうな要求が高くなっています。幼稚園児の親は、降園後、自分のお金を出して習い事をさせているのだけれども、保育園では長時間預かってもらっているし、習い事もできてというお徳感があったと、区民の方がちょっと思うと思うのです。そういう考えが広がっているような気がするのですけれども、もう一度保育園と幼稚園に対して、保育と教育という言葉について教えていただきたいなと思っております。
保育施設担当課長	なかなか難しいご質問だと思うのですけれども、私立幼稚園は幼稚園自体の所管が文科省ということで、そういう意味ではいわゆる就学前の教育という部分のカテゴリーといいますか、例えば個人であったり、宗教法人であったり、学校法人であったり、それぞれの園の建学の精神とか、そういった部分で教育に賛同して保護者の皆様が選んでくるということ、そこは非常に大事な部分で、それを区のほうは後方支援ということでバックアップをしているところでございます。 保育につきましては、ご承知のとおり福祉の分野。ただ、昨今は杉並区でも区立子供園ということで、教育、保育、短時間、長時間、一緒にやっております。また、昨今、仮称で就学前教育センター構想というのも区のほうにございまして、具体的にはこれからきちっと設計に入っていくというような考え方もございまして、そういったトータルで今後、教育、保育については就学前ということが一番大事だと

	<p>言われている社会状況になっていますので、区のほうとしても全力を挙げて教育委員会とも呼吸を合わせて進めてまいりたいと考えているところでございます。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。またちょっと国のほうの制度もあると思いますので。</p>
委員	<p>今、杉並区がこの待機児童解消緊急対策、子どもセンターも含めて、生まれてくる子どもたち、そして、それからの家族についての統計等も拝見しまして、ありがとうございました。</p> <p>ただ、いただきました「杉並区子ども・子育て支援事業計画（平成27～31年度）」の中の4ページにございます区の人口は平成24年以降増加傾向にありましたが、今後は平成28年をピークに減少傾向に転じると見込まれます。また、下のほうで、小学校就学前の子どもの人口につきましても平成22年以降増加傾向にありましたが、平成29年をピークに減少に転じると見込まれますという資料を拝見しまして、今、本当に杉並区は、23区の足立区以外は人口も増加の傾向にありますし、したがって、赤ちゃんも含めてこれから未来の世代が増えているのは大変喜ばしいことだと思います。それに対して、今、区の方も着々この待機児童を中心に、就学前児童のことについて、こんなにいろいろ策を練っておられることは、杉並区にとりましても、日本にとりましても大変ありがたいことだと思います。</p> <p>しかしながら、何年か後にはこの逆の状況にもなるということをごの程度杉並区行政の方はお考えになっているかをちょっと今お聞きしたいと思います。今は一生懸命この待機児童を中心にいろいろお考えもいただき、子どもセンターの設立その他に大変苦慮し、病児保育等につきましても、病院とのいろいろご配慮、大変ご熱心なご配慮は区民として大変ありがたく思いますけれども、この29年をピークにしましてということを読みますと、この計画書は31年までの事業計画ではございますが、ちなみに、その先についてお聞きできればと思ひまして、どのようなお心を持っておられるのかを聞きたくてお聞きしました。以上でございます。</p>
子育て支援課長	<p>まず、この計画を策定したのは27年3月ということで、26年度、今から2年から3年前の推計でやっているところでございますけれども、今、委員がおっしゃいました人口のピーク予測とか、就学前人口のピーク予測、いわゆる国の中では人口減少傾向に入っているということなのですけれども、東京都に限りましては一極集中で人口がどんどん増加している状況がございます。この計画策定段階ではこのような状況を見込まれていたのですけれども、現在に至っては、まだもう少し人口が伸びていくのではないかと考えております。</p> <p>この計画自体、先ほども申し上げましたように、29年度に見直しがかかります。5年間の計画ですけれども、中間年で見直しをかけるということでございますので、人口の変化とか、就学前人口の傾向とか、そういうことについても改めて見直していきたいと考えております。ですので、今、ここではもう冊子になっていますので、この状況は変えられませんが、今後の見直しの中で新たな推計をしていきたいと考えております。</p>
会長	<p>それでは、かなり会議時間が過ぎてしましまして、どうしてもというご意見がなければ、ここで議題の(1)については終結にしたいと思います。今、点検・評価をしていただきましたので、この意見をもとに手続を進めていただきたいと思います。作表の工夫から、また運用の工夫までたくさんの意見が出ましたので、ぜひよろしく願いいたします。</p>
子育て支援課長	<p>はい。それで、先ほどの子どもショートステイの予算、決算のお話なのですけれども、先ほど予算は計画に基づいて立てているということでお伝えしたのですけれども、原則はそれが原則なのですけれども、子どもショートステイについては実績がそんなにないということで、予算の計上については過去の実績に基づいて計上されているということでございます。ですので、計画数値の3,144人ではなくて、大体1,000人弱ぐらいで実績と伸び率を考慮して予算は立てられている実態があるということでございました。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは、議題1の(2)の「その他」なのですけれども、事務局からお願いいたします。</p>
子育て支援課長	<p>それでは、実行計画についてちょっとお話をしたいと思います。席上配付の資料</p>

	<p>で、参考資料4 というのがございます。</p> <p>実物はこういう冊子になっておりまして、今、現行の計画の中で子ども・子育て会議にかかわるところを抜粋してお示ししております。</p> <p>こちらの黄色い本の2ページをお開きいただきたいのですが、2ページの上のほうに「計画の体系概要」というのがございます。区の計画の体系概要です。区ではさまざまな計画に基づいて事業を行っていますけれども、そこに書かれているように、一番上位の計画として杉並区基本構想というものがございまして、その中に10年を期間とする総合計画と3年を期間とする実行計画がございまして、その下位計画として保健福祉計画とか、この子ども・子育て支援事業計画等々、さまざまな分野の計画がぶら下がっております。</p> <p>今、参考資料4としてお示ししたのは、現行の実行計画で子ども・子育て会議に関係する部分を抜粋したのですが、現行の計画は27年度から29年度までの3か年計画となっております。今年がちょうどその計画を見直す年になってございまして、見直した後は29年度から31年度までの3か年計画ができることになっております。改定計画案については現在策定中で、今月の29日に議会にお諮りして、先ほど冒頭、部長から話があったように、9月1日から1か月間、この実行計画の改定案についてのパブリックコメントを行う予定になっております。</p> <p>本日は議会前ということで、改定計画案を皆さんにお示しはできないのですが、議会終了後、パブリックコメントに合わせて、委員の皆様にも子ども・子育て会議に該当する部分について抜粋してお送りいたします。ご意見を徴取するようなシートも同封いたしたいと考えております。</p> <p>基本的には実行計画については現行の計画を引き続き継続する方向性で考えておりますけれども、例えば私立の認可保育園の新設等については今後3年間も引き続き増やしていくという方向性も考えてございます。支援事業計画、こちらの黄色い本の計画についても、この実行計画に基づきまして29年度改定をすることとなりますので、今日は直接お示ししなくて、ご意見をいただけないのですけれども、9月に入りましたらすぐにその部分を各委員さんにお送りして、実行計画について子ども・子育て会議に関係する部分についての意見も頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
会長	その意見の収集はパブリックコメントという形ですか。それとも、事務局のほうに直接メール等で……。
子育て支援課長	そのときまた集まっていたいただいて子ども・子育て会議を開くわけにはまいりませんので、事務局のほうで個別に子ども・子育て会議の委員の意見として集約したいと考えております。
会長	それでは、皆様に郵送等で参りますので、よく見ていただいて、意見がありましたら子育て支援課長のところに、私のところでも結構ですので送っていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。 何かご質問……。
委員	その意見、アンケートとパブコメとどちらのほうが強いのでしょうか。それによって……。
子育て支援課長	強い、弱いということはありません。意見をいただいて、反映できる部分はパブリックコメントについても、子ども・子育て会議についても反映していきますし、意見を実行計画には反映できなくても、子ども・子育て計画の中で反映していくということも考えられますので、パブリックコメントのほうがいいとか、委員としての意見のほうが強いかということはありませんので。
委員	では、重複して出してもよいということですよ。
子育て支援課長	はい、そういうことです。
会長	どうぞよろしくお願ひいたします。 それでは、次、3番の報告事項に入りたいと思ひます。 (1)の「保育緊急対策について」、事務局から説明をお願ひいたします。
子育て支援課長	それでは、保育の緊急対策について、これまでの経過と今後の進捗の状況について説明させていただきたいと思ひます。
保育施設整備推	説明のほうは、私、保育施設整備推進担当課長、中村からご説明させていただきます

進担当課長	<p>ます。</p> <p>資料の右上、「参考資料3」をご覧ください。この間の待機児童解消緊急対策に基づきます保育施設整備の進捗状況についてご説明をいたします。</p> <p>この間、4月18日に「すぎなみ保育緊急事態宣言」をさせていただきましたが、その後の経過について、ご説明いたします。</p> <p>5月に待機児童解消緊急対策を策定いたしました。その概要が次のページについておりますA3判の資料の内容になります。今年の4月の待機児童が136名と昨年度に比べて大幅に増加した中で、28年度当初の計画、そして緊急対策第一弾として計画をしました4つの施設、こちらの施設を整備しても、さらに来年度4月、560名を超えるような待機児童が想定される中で、今回、緊急対策第二弾としまして区立施設を活用した保育所の整備を計画したところでございます。</p> <p>また、緊急対策につきましては、今回、来年4月までに着実に確実に整備をするというところで区立施設の活用を考えたところでございますが、ハード面の整備だけではなくて、今回の緊急対策については、資料の右のところにも記載しておりますとおり、保育の質の維持ですとか、また人材の確保、こういったところにも区としてはこれまでと変わらず力を注いでいくということで緊急対策を策定したところでございます。</p> <p>その後、参考資料3、1枚目の資料にお戻りいただきまして、5月、そして7月と緊急対策第一弾、そして第二弾の事業者が決定いたしました。それぞれの事業者の会社名等につきましては、そのA3判の資料の次のところにつけております別紙、右上に「別紙」と記載しております資料に記載をしております。左側の枠のところそれぞれ第一弾、第二弾でそれぞれの選定をいたしました運営事業者の一覧になります。また、区内での実績等についても参考に記載をしております。</p> <p>今、現状、8月の状況としますと、それぞれの認可保育所につきましては更地化の工事を行っているところでございます。</p> <p>そして、今後の話となりますが、次、2番のところでございますけれども、住民説明会をこの間開催してまいりました。5月から6月にかけては保育施設への活用につきまして住民説明会を開催し、また、事業者を選定した後、7月には事業者とともに設計の図面ですとか、または保育園の運営方針につきまして説明会を開催したところです。また、説明会の開催の日時等、実績等につきましては別紙のところに記載をしておりますとおりでございます。</p> <p>また、こういった説明会の中でさまざまな意見を頂戴いたしました。それにつきましては、説明会にお越しいただけなかった方も多数いらっしゃると思いますので、区のホームページのほうで、Q&Aという形で一問一答形式で区の考え方の詳細をご説明しているところです。</p> <p>また、ホームページ等をご覧いただけない方もいらっしゃると思いますので、資料の一番最後のところにつけましたカラー版のもの、「区民の皆さまからのご質問にお答えします」というこちらのQ&Aを町会の回覧板ですとか、あとは小・中学校のところを通しまして、地域の皆様に今回の緊急対策の内容について広く周知をさせていただいたところでございます。</p> <p>また、最後、今後のスケジュールなのですが、更地化の工事が終了した後、9月以降、運営事業者が今度は保育園の建物を建て始める施設の整備に着手をいたします。そして、来年の2月ごろには建物が竣工いたしまして、来年の4月には認可保育所の保育園がそれぞれ開園をするといったような形で今鋭意進めているところでございます。</p> <p>簡単ではございますが、この間の緊急対策の概要につきまして、ご説明をさせていただきました。以上でございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、続けて報告をお願いいたします。保育のあり方の検討についてですね。</p>
子育て支援課長	<p>では、保育のあり方検討の経過について、保育課長のほうからご報告いたします。</p>
保育課長	<p>私のほうから、区立保育園のあり方検討会の検討事項について、口頭でございまして、ご報告をさせていただきます。</p> <p>27年度に区役所内部におきまして区立保育園のあり方に関する検討会を設置いた</p>

	<p>しまして、公立園として求められる役割や地域の拠点として担うべき役割、さらには、今後の運営形態などについて検討してまいりました。また、1月にはこの子ども・子育て会議におきましても検討経過等をご報告といたしますか、担うべき役割の考え方について途中で報告をさせていただいたところでございます。</p> <p>その考え方に基づく具体的な取り組み内容については、27年度中に結論を出すというようなことで考えておりましたが、先ほどご説明したとおり、保育の待機児童解消緊急対策の実施などを行うといったことを踏まえて、さらに区役所内に別途検討組織を設けて、行財政に関する観点といった広い視野からの検討をさらに行うことになりました。つきましては、現段階では、前回の1月の途中でこんなことを今検討している途中ですというご報告をしたもの以外については改めてご報告できる内容がない。要は別な検討組織の中で引き続き検討することになったということでごございました。そういったことで、お示しできるものがないという内容でございます。</p> <p>ただし、先ほど子育て支援課長のほうから、9月1日からパブリックコメントをする実行計画の中には一部その部分、検討会で途中でご報告した障害児の対応だとか、先ほどの保育施設の内容なんかについてもお示しをしているところがございませぬので、それらのことについては公表時期にあわせて後日郵送して皆さんからご意見をいただくというスタイルでございますので、その中身でご確認をいただければということでご報告をさせていただいた次第でございます。別途の組織で検討したものは、ちょっと時間はかかるのですが、結論が出た段階でまた皆様のほうには情報提供させていただきたいと思っております。以上でございます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、続けて、スケジュールのことをお伺いして質問を受けたいと思っております。</p>
子育て支援課長	<p>資料5のスケジュール（案）について見ていただきたいと思っております。</p> <p>今日、第2回子ども・子育て会議を開催させていただきました。今日のご意見をいろいろいただきましたので、その進捗状況を踏まえて29年度の数値、予算化、それから29年度の見直しに向けたデータ収集と分析等を事務局サイドで行っていきたいと思っております。</p> <p>次の開催は来年1月を予定してございますけれども、そのときには29年4月の保育量の見込みと確保量についてとか、今日いただいた計画の点検・評価についていろいろわかりにくい部分とか、初めてやって見て、確かに数値の取り方とか、それぞれの事業でばらばらだったりするものですから説明が非常にしにくい部分もありましたので、そういったところも含めてわかりやすい報告にしたいと考えてございます。そういった点検・評価結果の案についてもお示ししたいと考えてございます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、今の3点につきまして、質問、ご意見がありましたら頂戴したいと思います。緊急対策、区立保育園のあり方の検討の進捗状況をいただきました。あと、スケジュールについてです。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>今ご説明いただいた保育園の新設については、本当にマスコミでも非常にたくさん報道もされまして、大きな問題だというのは私も見ながら感じていたのですけれども、今建設が始まったり、いろいろ整備が始まっていて、会議に参加している身としては本当に必要なことだからということは感じつつもなのですけれども、代替地の公園として寄せられた公園が今草ぼうぼうになっていて、この夏休みに子どもたちが遊べなかつたし、ここをかわりにと言われたけれども、では、これをどうしたらいいのかというふうな声は正直聞きました。</p> <p>箱物をつくるのはもちろん大事なのですが、代替えの場所をまたどうきちんとしていくかということを含めての計画かなど。偉そうなのですが、ピンチはチャンスではないのですけれども、杉並区のファンにするチャンスでもあるなと聞いていると思うのです。いろいろあったけれども、保育園ができた。でも、代替えの土地を今度自分たちとしてどういうふうに行うかという、杉並区がそこを一緒に考えてくれる。保育園だけではなくて、まちづくりも考えてくれているのだと思えば、多分杉並の方ってすごくパワーを発揮してくれると。だからこそその住民運動だったかなと私は聞いていて思うので、そこも含めた計画としてぜひ話し</p>

	<p>合いをまた全体的に、包括的にしながら、代替地の有効的な利用ということも含めて進めていただけるといい方向に進むかなと個人的に思いましたので、意見としてお伝えいたしました。</p>
保育施設整備推進担当課長	<p>ご意見、ありがとうございます。代替えの場所につきましては、東原公園、向井公園、両方の代替え場所のことをおっしゃっていただいていると思います。いずれも現在暫定的な形で開放しておりますので、本格的な整備につきましては区民の皆様のご意見を取れ入れながら進めていきたいと思っております。</p> <p>また、来年4月に保育園を開園するときには、当然、保育園については地域に溶け込んで、愛される保育園になるということも確実に実現したいと思っておりますし、また、その代替え場所につきましてもこれまでの公園の機能が引き継がれていると区民の皆様にご覧いただけるような形になるように取り組んでいきたいと思っておりますので、貴重なご意見、ありがとうございます。</p>
委員	<p>ご丁寧に説明していただいて、ありがとうございます。</p>
会長	<p>ほか、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>幼稚園の立場で一言言わせていただきたいのですが、今、保育園のほうがどんどん進んでいるのですが、幼稚園がなくなっている場所も結構あって、ただ、その地域に幼稚園に入れたいという保護者の方がいらっしやって、電話がかかってくるのです。区は保育園ばかりあちこちに建てるに、幼稚園がどんどんなくなってしまうという電話での嘆きの声を幼稚園にいただいたことを一言申し上げたいのが1点です。</p> <p>あとは、今日はお金のことばかり言って申しわけないのですが、認可保育所を1件建てるのに1億5,000万と伺いました。7割が国からの援助、3割のうち2割を都と区で折半、1割が事業者負担というようなことを聞きました。今回の新制度で案の定10%にはなりませんでしたね。この予算はどこから組んでいる予算なのかということを一言だけ伺いたいと思えました。</p>
保育施設整備推進担当課長	<p>認可保育所を整備するに当たって補助金等の関係ですけれども、例えば建物の整備に2億円程度かかったといたしますと、その中で区の負担は1,200万程度になります。国や都からの補助につきましては大体1億7,000万程度ですので、その1億7,000万、区の負担である1,200万、それを2億円から差し引いた金額が事業者が負担するという形になりますので、2億円程度の建物を建てるとすると、区の負担としましては1,200万円程度ということになります。</p>
委員	<p>待機児童解消は、私は施設だけではないと思うのですよね。さまざまな面で、要は、働いて収入を得なきゃいけないから保育所に預けるといって方が増えてきている。ただ、働かなくてもいいような施策というのもあると思うのです。例えば補助金とか、そういったことで。そういうのをもうちょっと総体的に、区民の特に子育て世代の方のお話を聞いた中で、もう少し丁寧に取り組んでいただけると、それでも施設が必要だということであれば理解は得られると思うのです。そういった点をぜひお願いしたいと思います。</p>
保育課長	<p>今のご指摘のとおりで、施設だけではなくと。ただし、働かないように何か区のほうで施策をまた別に、補助金を個人に出すとかいうのはなかなか厳しいかなというのがありますけれども、ご意見としては承知いたしました。</p> <p>あと、育休については、これも育休がとれる方、とれない方、さまざまございます。制度として確立している企業もあれば、中小企業なんかはなかなかとりにくいとか、自営の方はそもそも制度がないというのがあるので、本来ですと、育休を1年、2年とっていただければ保育の施設をつくる必要はないといえますか、需要を抑えられるというのがありますけれども、その辺もいろいろ区も工夫しながら、どういったことができるのかというのは……。</p>
子ども家庭担当部長	<p>ちょっと補足させていただきます。需要を抑える施策も必要ではないかということで育休の問題について触れさせていただいているのですが、育休制度はあるのですが、ちょっと中途半端なところがあって、給付金が途中でなくなってしまうとか、やはり民間の企業だと取り辛いだとか、そういったものがありますので、それも1つ取り易くすることによって需要を少し適正にすることもできるということを考えておまして、それは23区の区長会を通じまして、具体的に育</p>

	<p>休を取り易くするための提案を区長会として国に対して出したりしております。働き方の改革が今騒がれていますけれども、その一環でこちらのほうも声を挙げて国のほうに形にさせていただくということも一方でやりつつ、需要に対して応えていくという考えで進めているところでございます。</p>
会長	<p>ほか、いかがでしょうか。 では、ちょっと時間が……。</p>
委員	<p>保育園が本当に今先生方が足りなくて緊急な事態でして、また、保護者の方には女子のおむつ替えを男性保育士にさせないでほしいという話もあつたりとかで、現場は本当に女の先生たちで大変な状況になっているので、ぜひ保育士の確保に力を入れてください。お願いします。</p>
保育課長	<p>ご意見、ありがとうございます。先ほど説明した緊急対策の中でも、大きな柱の中の1つに保育士の確保ということも掲げております。来年、二十数箇所、杉並だけでもつくる。近隣の区市町村も東京中心ですけれども、どの地区も保育施設を大量にといいますか、つくっていくというのがありますので、区のほうでも保育人材、施設に任せるということではなくて、区のほうでもいろいろと取り組んでまいりたいと思っております。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。 それでは、ちょっと時間が過ぎてしまいましたが、今日は、これで終わりにしたいと思えます。もし何かまた言い足りないこと等がありましたら、メール等でご連絡いただければと思えます。 では、次回は1月ということになりますが、本日の意見を生かした報告がまた聞けると思えますので、事務局にはよろしく願いいたします。 それでは、お疲れさまでした。今日はこれで閉会にしたいと思えます。</p>